

令和 2 年 9 月 27 日現在

機関番号：82723

研究種目：基盤研究(B) (海外学術調査)

研究期間：2015～2019

課題番号：15H05157

研究課題名(和文) 談話データを使ったシダーマ語とクブサビニ語の情報構造の研究

研究課題名(英文) Studies on Information Structure in Sidaama and Kupsapiny Based on Discourse Data

研究代表者

河内 一博 (Kawachi, Kazuhiro)

防衛大学校(総合教育学群、人文社会科学群、応用科学群、電気情報学群及びシステム工学群)・総合教育学群・教授

研究者番号：00530891

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、現地で収集した談話データ(自然な会話、民話、実話、ビデオの口述)を使い、典型的に異なる東アフリカの二つの言語、クブサビニ語(ウガンダ、ニール語族)とシダーマ語(エチオピア、クシ語族)の情報構造の表現パターンを調べた。特に注意深く調査した現象としては、(i) 両言語の分裂・擬似分裂構文(特に焦点化する構成素がないような文脈でも使われる)、(ii) クブサビニ語の名詞接尾辞で区別される定性の区別(定の形式が不定の形式よりもずっと頻繁に起こる)、(iii) シダーマ語の高いピッチ・アクセントによる話題化(対格・斜格の標示との区別が不可能)がある。

研究成果の学術的意義や社会的意義

現地で収集した談話データを使い、深い研究が十分になされていないニールとクシの言語の文法現象の中でも特に記述がなされていない情報構造に関する現象を理論的に中立な立場から記述し、公開した。シダーマ語とクブサビニ語という個別言語の研究を超えて言語類型学的問題に取り組み、理論言語学に国際的に貢献した。

研究成果の概要(英文)：The present study examined the patterns of information structure expression in two typologically different languages in East Africa, Kupsapiny (Nilotic; Uganda) and Sidaama (Cushitic; Ethiopia), using the discourse data (natural conversations, folk tales, true stories, and video descriptions) that I collected in the fields. The phenomena I investigated with special attention include: (i) the cleft or pseudo-cleft constructions in both languages, which are used in contexts where no particular constituent is focused upon, (ii) the definiteness distinction made with noun suffixes in Kupsapiny, in which, depending on the noun type, noun forms with the definite suffix appear much more frequently than those with the indefinite suffix, and (iii) topicalization with a high pitch in Sidaama, which is indistinguishable from accusative-oblique marking.

研究分野：言語学、言語類型論、語用論、意味論、形態統語論、アフリカ言語学

キーワード：言語学 類型論 情報構造 語用論 アフリカ言語学

1. 研究開始当初の背景

・本研究に関連する国内・国外の研究動向及び位置づけ

近年通言語的な情報構造の研究が盛んである。アフリカの言語の情報構造の研究も徐々に増えつつある(例えば、Aboh et al. 2007, Fiedler & Schwarz 2006, 2010)。しかし、用語の整理ができていなかったり、文脈を十分に与えていない研究が多くあるというのが現状である(とは言っても、後述するように、応募者の研究にも反省すべき点がある)。また、アフリカの言語の情報構造の研究は、バントゥを中心にニジェール・コンゴの言語の研究はある程度は進んでいるが、東アフリカの言語の研究は(Doris Payne 氏や稗田乃氏等によるナイル諸語の研究を除いては)非常に限られたものしかない。さらに、東アフリカの言語の記述文法で、情報構造まで含めたものは極めて稀である。

・着想に至った経緯

これまでの自分の研究のやり方への反省がある。これまで、(i) Humboldt-Universität zu Berlin の共同研究プロジェクト Predicate-centered focus types: A sample-based typological study in African languages (代表者: Tom Güldemann) (2011年1月~現在)、および(ii) 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所の共同研究プロジェクト「アフリカ諸言語の情報構造と言語形式の類型論的研究」(代表者: 稗田乃) (2011年年度~2013年度)のメンバー、(iii) 科学研究費補助金基盤研究(B) 研究協力者「ナイル諸語の統語論、情報構造と言語形式の研究」(研究課題番号: 24320073) (研究代表者: 稗田乃) (2012年度~2014年度)の研究協力者として、情報構造の研究に関わってきた。(i) のプロジェクトで使っている2人の会話の翻訳の質問票を使用し、主にエリシテーションにより、特定の文脈において個々の表現は可能か(とりわけ、焦点のタイプによる構文の違い)を中心に見てきた。データとして得た個々の会話について十分自然なものであることを確認していったが、この方法には限界がある。シダーマ語に関しては、情報構造の概要を知ることができたが、細部に関しては良くわからない点が残っている。クブサビニ語に関しては、いくつかの構文における情報構造を除いては、情報構造の全体像をつかむことも難しく、さらに話者による文法性の判断の個人差が存在することが判明した。

限られた調査期間においてデータ収集を効率的に進めようとする、エリシテーションを行なうのが最も良いように思われる。しかし、国内外の学会や研究会(特に(iii)を通して参加した2013年5月のNilo-Saharan Colloquium、および2014年10月のInternational Symposium on Information Structure in Africa, with an International Workshop on Nilotic Linguistics)での他の研究者たちとの交流を通して、深い研究を行なっている研究者の多くが研究している言語を実際に運用できるレベルまで習得していることを知り、特に情報構造のような分野の研究において、分析を能率的なものにするためには研究者自身が研究している言語を習得し、大量のデータを速いスピードで処理できるようになることが効果的であることがわかった。

さらに、従来扱われていた文法(文を基本単位とする文法)だけでなく、談話のレベルの構造的な特徴も、近年は記述文法に取り入れる傾向になっているということも、談話のデータを使って情報構造に取り組む動機となっている。

・発展させるべきこれまでの研究成果の内容

Kawachi (近刊 a) では、シダーマ語の文法のスケッチの中で、情報構造の違いにより使われる構文パターンの概観を行なった。Kawachi (近刊 b) では、クブサビニ語の3つのコピュラ構文のうちの一つが主語と比較して述部の名詞句がより活性化されている場合(主語が直示的でないにもかかわらず述部の名詞句が直示的である場合または定性を示す場合)は使えないということを示した。ただし、これらの論文は主にエリシテーションによるデータに基づいていて、今まで収集してきた談話データを活用することができていないという問題点がある。

2. 研究の目的

本研究は、深い研究がなされていない東アフリカの言語のうち、応募者が研究し続けているシダーマ語(エチオピア、クシ語族)とクブサビニ語(ウガンダ、ナイル語族)の情報構造を明らかにすることを目的とする。データとしては主に談話(特に民話と会話)を扱い、特定のタイプの文脈においてこういった要因のためにどのようなパターンの表現がなされるかを調べる。同時に、応募者もこれらの言語を運用できるレベルにまで到達することにより、これらの言語の情報構造についてより深い理解を効率的に得られるようにする。そして、情報構造に関する記述を、執筆中の各々の言語の記述文法の一章に含め、さらに、理論的問題を扱い理論に貢献できるような論文を書く。記述と論文に使ったデータは、その文脈が他の研究者にも明らかになるような方法で公開する。

3. 研究の方法

毎年夏、冬、春に、エチオピアのシダーマ・ゾーンにおける調査によりシダーマ語のデータを

集め、ウガンダのカプチョーワ市における調査によりクブサビニ語のデータを集めた。主に口頭で語ってもらった民話と2人以上の話者の会話を記録し、細部に関してメインのコンサルタントと分析をした。特定の文脈における他の表現の使用に関しては、メインのコンサルタントにエリシテーションを行った。これらの言語の情報構造上で有標の表現のあらゆるパターン、およびそれらが使われる場面や状況を調べた。

4. 研究成果

(1) 研究の主な成果

Kawachi (2020b, c) でシダーマ語の情報構造の全体像について発表した。主に、項と修飾語句および述部の焦点を表すクリティックの用法、対照的焦点のピッチ・アクセントのパターン、話題を表すクリティックの用法、対照的話題化を含む名詞句の話題化に使われるピッチ・アクセントのパターン、「言う」という動詞を使った話題構文の用法、分裂構文と疑似分裂構文の用法を記述した。これらについては、将来出版するシダーマ語の文法の一チャプターとして、今後も加筆を続ける。

シダーマ語の分裂構文と疑似分裂構文の区別について河内 (2017b) に発表した。英語のような言語の場合、分裂構文と疑似分裂構文は形式上区別される。シダーマ語では分裂構文(と思われる構文)と疑似分裂構文(と思われる構文)に名詞句を形成するクリティックを使う。前者は「節=*hu* 焦点=*ti*」という形式あるいはその倒置の形式「焦点=*ti* 節=*hu*」を取るが、後者では節に付くクリティックが形成される名詞句の指示対象と性と数において一致を示し、形式上どちらであるか判断ができない場合がある。これらの構文は主部の節に対しての焦点の構成素の文法関係によりある程度の相補分布を示すが、どちらの構文も容認される場合があり、両者は形式および文法関係において互いに重なり合う部分がある。また、節の内容の聞き手の知識の前提に関して分裂構文と疑似分裂構文の談話における使用範囲がどのように違うかについては異なる考えがある (e.g. Prince 1978, Declerck 1988)。シダーマ語の場合、英語等の言語でのこれらの構文の使用に必要であると言われる語用論的前提や話題性の前提が存在しない場合にも使われている事例が多くあることを指摘し、その原因を考えた。この論文は現在もまだ修正を続けている。

また、これらの構文に関する論文として Kawachi (2020a) において、シダーマ語の人魚構文の歴史的起源を分裂構文・疑似分裂構文に見出そうとした。

クブサビニ語に関しては、河内 (2018b) において、名詞の定性の形態的標示について議論した。この言語の名詞には定の接尾辞が付いた形式と付いていない形式がある。これらの定と不定の名詞の形式が自然な会話や民話等のデータにおいてどのように使われるかを調べ、Dryer (2014) の Reference Hierarchy における適用範囲を調査して、この枠組みからわかる点、この枠組みで言語の多様性をとらえる上で考慮に入れるべきであると思われる点を指摘した。Dryer の階層の定の領域には、クブサビニ語の名詞の定の形式が使われ、不定の形式は使えない。ところが階層の不定の領域にはほとんどの場合、どちらの形式も使うことができる。実際、名詞句の指示対象が均質な成員から成る範疇を形成しているとみなされるような場合(特に指示対象が無生の場合)に階層の不定の領域に定の形式が好んで使われることが多い。不定の領域における定の形式の使用のその他の要因も報告した。なお、この論文は現在もまだ修正を続けている。

また、シダーマ語とクブサビニ語の談話データをもとに河内 (2017a, 2018a), Kawachi (2018a, 2018b, 2019) 等を発表した。

参考文献

- 河内一博 (2017a)
シダーマ語の「言う」/「する」を使った表現の慣用化：脱イディオフォン化と語形成
『日本言語学会第154回大会予稿集』 pp.136-141.
- 河内一博 (2017b)
分裂構文と疑似分裂構文の区別と使用における前提：シダーマ語の事例からの考察
『日本言語学会第155回大会予稿集』 pp.57-62.
- Kawachi, Kazuhiro (2018a)
Chapter 17: Sidaama.
In Tasaku Tsunoda (ed.) *Levels in Clause Linkage: a Crosslinguistic Survey*, 685-749.
Berlin & Boston: De Gruyter Mouton. (Comparative Handbooks of Linguistics)
- Kawachi, Kazuhiro (2018b)
Chapter 18: Kupsapiny.
In Tasaku Tsunoda (ed.) *Levels in Clause Linkage: a Crosslinguistic Survey*, 750-801.
Berlin & Boston: De Gruyter Mouton. (Comparative Handbooks of Linguistics)
- 河内一博 (2018a)
クブサビニ語の Associated Motion を表す構文：類型的観点からの分析
『日本言語学会第156回大会予稿集』 pp.295-300.
- 河内一博 (2018b)
クブサビニ語の名詞の定性の区別：Dryer の定性の標識の類型論的枠組みでの分析
『日本言語学会第157回大会予稿集』 pp.330-335.

- Kawachi, Kazuhiro (2019)
Noun phrase structure and nominalizations in Sidaama (Highland East Cushitic; Ethiopia) and Kupsapiny (Southern Nilotic; Uganda).
Osaka International Symposium on Nominalization at Osaka University, Toyonaka Campus. 大阪大学豊中キャンパス南部陽一郎ホール
- Kawachi, Kazuhiro (2020a)
Chapter 16: Sidaamaa.
In Tasaku Tsunoda (ed.) *Mermaid Constructions: A Compound-Predicate Construction with Biclausal Appearance*, pp.679–733.
Berlin & Boston: De Gruyter Mouton. (Comparative Handbooks of Linguistics)
- Kawachi, Kazuhiro (2020b)
Chapter 42: Sidaama.
In Vossen, Rainer, and Gerrit J. Dimmendaal (eds.) *The Oxford Handbook of African Languages*, pp.543–552. Oxford University Press.
- Kawachi, Kazuhiro (2020c)
Chapter 14: Sidaama.
In Wakjira, Bedilu, Ronny Meyer, Yvonne Treis, and Zelealem Leyew (eds.) *The Oxford Handbook of Ethiopian Languages*. Oxford University Press.

(2) 得られた成果の国内外における位置づけとインパクト

国際学会を中心に主に英語による発表を行なったので、言語学への国際的な貢献をすることができた。また、理論的な問題を扱った言語学の発表をしたという点でアフリカの言語のデータを使った言語学の研究への貢献ができたと思う。

(3) 今後の展望

これまでと同様にクプサビニ語とシダーマ語の文法現象の理論的問題を扱う論文を書きながら、同時進行でフィールドワークで収集したデータをもとにしてこれらの言語の文法の記述の改訂を続けて行くつもりである。書き始めて完成していない原稿が複数あるので、できる限り早く出版できるようにする。

また、個人研究に加えて、アフリカの言語の通言語的な共同研究およびアフリカを超えた世界の言語の類型論一般の共同研究をさらに押し進める計画でいる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計19件（うち査読付論文 8件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 9件）

1. 著者名 Kawachi, Kazuhiro, Erika Bellingham, and Juergen Bohmeyer	4. 巻 18
2. 論文標題 Different types of causality and clause linkage in English, Japanese, Sidaama, and Yucatec Maya	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『日本認知言語学会論文集第18巻 (Papers from the 18th National Conference of the Japanese Cognitive Linguistics Association) 』	6. 最初と最後の頁 47-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河内一博	4. 巻 157
2. 論文標題 クサビニ語とシダーマ語における通言語的傾向と類型タイプの現れ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本言語学会第157回大会予稿集	6. 最初と最後の頁 362-367
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 河内一博	4. 巻 157
2. 論文標題 クサビニ語の名詞の定性の区別: Dryer の定性の標識の類型論的枠組みでの分析	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本言語学会第157回大会予稿集	6. 最初と最後の頁 330-335
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 河内一博	4. 巻 156
2. 論文標題 クサビニ語の Associated Motion を表す構文: 類型的観点からの分析	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本言語学会第156回大会予稿集	6. 最初と最後の頁 295-300
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kawachi, Kazuhiro	4. 巻 1
2. 論文標題 Chapter 18: Kupsapiny	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Tasaku Tsunoda (ed.) Levels in Clause Linkage: a Crosslinguistic Survey	6. 最初と最後の頁 750-801
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1515/9783110519242-018	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kawachi, Kazuhiro	4. 巻 1
2. 論文標題 Chapter 17: Sidaama	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Tasaku Tsunoda (ed.) Levels in Clause Linkage: a Crosslinguistic Survey	6. 最初と最後の頁 685-749
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1515/9783110519242-017	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kawachi, Kazuhiro	4. 巻 1
2. 論文標題 Chapter 11: Event integration patterns in Sidaama and Japanese	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Pardeshi, Prashant, and Taro Kageyama (eds.) Handbook of Japanese Contrastive Linguistics	6. 最初と最後の頁 313-342
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1515/9781614514077-012	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河内一博	4. 巻 154
2. 論文標題 シダーマ語の「言う」/「する」を使った表現の慣用化：脱イディオフォン化と語形成	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本言語学会第154回大会予稿集	6. 最初と最後の頁 136-141
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 河内一博	4. 巻 155
2. 論文標題 分裂構文と疑似分裂構文の区別と使用における前提：シダーマ語の事例からの考察	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本言語学会第155回大会予稿集	6. 最初と最後の頁 57-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kawachi, Kazuhiro	4. 巻 37
2. 論文標題 Is Sidaama (Sidamo) a marked-nominative language?	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 LACUS Forum	6. 最初と最後の頁 75-86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 河内一博	4. 巻 -
2. 論文標題 シダーマ語の空間移動の経路の表現方法	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 松本曜 (編) 『シリーズ言語対照 (外から見る日本語) 第7巻: 移動表現の類型論』	6. 最初と最後の頁 213-246
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kawachi, Kazuhiro (with the help of data provided by Yuko Abe, Osamu Hieda, Kyoko Koga, Junko Komori, Motomichi Wakasa, Nobuko Yoneda, and Hiroshi Yoshino)	4. 巻 10
2. 論文標題 Introduction: An overview of event integration patterns in African languages.	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Asian and African Languages and Linguistics.	6. 最初と最後の頁 1-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kawachi, Kazuhiro	4. 巻 10
2. 論文標題 Event integration patterns in Kupsapiny.	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Asian and African Languages and Linguistics.	6. 最初と最後の頁 37-91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 河内一博	4. 巻 22
2. 論文標題 言語類型論の研究の魅力と英語教育における有用性、私のこれまでの研究の内容と経緯	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 JANESニュースレター	6. 最初と最後の頁 25-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kawachi, Kazuhiro	4. 巻 1
2. 論文標題 Chapter 42: Sidaama.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ossen, Rainer, and Gerrit J. Dimmendaal (eds.) Handbook of African Languages. Oxford University Press.	6. 最初と最後の頁 543-552
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/oxfordhb/9780199609895.013.30	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Kawachi, Kazuhiro	4. 巻 1
2. 論文標題 Chapter 14: Sidaama.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 In Wakjira, Bedilu, Ronny Meyer, Yvonne Treis, and Zelealem Leyew (eds.) The Oxford Handbook of Ethiopian Languages. Oxford University Press.	6. 最初と最後の頁 未定
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Kawachi, Kazuhiro, Sang-Hee Park, and Erika Bellingham	4. 巻 26
2. 論文標題 Directness of causation and morphosyntactic complexity of constructions: Japanese and Korean cases.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Iwasaki, Shoichi, Susan Strauss, Shin Fukuda, and Sun-ah Jun (eds.) Japanese/Korean Linguistics, Vol. 26. Stanford, CA: CSLI Publications.	6. 最初と最後の頁 未定
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Matsumoto, Yo, and Kazuhiro Kawachi	4. 巻 1
2. 論文標題 Introduction: Motion event descriptions in broader perspective.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Matsumoto, Yo, and Kazuhiro Kawachi (eds.) Broader Perspectives on Motion Event Descriptions.	6. 最初と最後の頁 1-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1075/hcp.69.int	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kawachi, Kazuhiro	4. 巻 1
2. 論文標題 Chapter 7: Should Talmy's motion typology be expanded to visual motion? An investigation into expressions of motion, agentive motion, and visual motion in Sidaama (Sidamo).	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Matsumoto, Yo, and Kazuhiro Kawachi (eds.) Broader Perspectives on Motion Event Descriptions.	6. 最初と最後の頁 205-233
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1075/hcp.69.07kaw	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計32件（うち招待講演 5件 / うち国際学会 14件）

1. 発表者名 Kawachi, Kazuhiro
2. 発表標題 Motion event descriptions in Kupsapiny: Factors in the use of deictic verbs and suffixes
3. 学会等名 NINJAL International Symposium: Motion Event Descriptions across Languages (MEDAL) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kawachi, Kazuhiro
2. 発表標題 Motion event descriptions in Sidaama: Forms expressing different path types
3. 学会等名 NINJAL International Symposium: Motion Event Descriptions across Languages (MEDAL) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kawachi, Kazuhiro, Sang-Hee Park, and Erika Bellingham
2. 発表標題 Directness of causation and morphosyntactic complexity of constructions: Japanese and Korean cases
3. 学会等名 26th Japanese/Korean Linguistics Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 河内一博
2. 発表標題 クブサビニ語とシダーマ語における通言語的傾向と類型タイプの現れ
3. 学会等名 日本語学会第157回大会 ワークショップ『移動経路の種類とそのコード化：通言語的ビデオ実験と移動表現の類型論再考』
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 河内一博
2. 発表標題 クブサビニ語の名詞の定性の区別：Dryer の定性の標識の類型論的枠組みでの分析
3. 学会等名 日本語学会第157回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 河内一博
2. 発表標題 クプサビニ語の Associated Motion を表す構文：典型的観点からの分析
3. 学会等名 日本言語学会第156回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kawachi, Kazuhiro, Erika Bellingham, and Juergen Bohnemeyer
2. 発表標題 Causative event descriptions in Kupsapiny (Southern Nilotic; Uganda)
3. 学会等名 日本アフリカ学会第55回学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kawachi, Kazuhiro, Erika Bellingham, Juergen Bohnemeyer, and Sang-Hee Park
2. 発表標題 An experimental study on causative event descriptions across languages (English, Japanese, Korean, Kupsapiny, Sidaama, and Yucatec Maya)
3. 学会等名 第8回海外学術フェスタ (8th Overseas Scientific Research Festa) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kawachi, Kazuhiro
2. 発表標題 Associated motion construction types
3. 学会等名 東京アフリカ言語学研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 河内一博
2. 発表標題 様々なタイプの因果関係を表す事象に使われる構文：韓国語とクプサビニ語の場合
3. 学会等名 東京アフリカ言語学研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kawachi, Kazuhiro
2. 発表標題 An experimental study on causative event descriptions across languages
3. 学会等名 Linguistics colloquium (Public lecture), Department of Linguistics, Addis Ababa University, Addis Ababa, Ethiopia (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kawachi, Kazuhiro
2. 発表標題 Iconicity in usage: The case of causative event descriptions
3. 学会等名 Linguistics colloquium, Department of English Literature and Linguistics, Qatar University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 河内一博
2. 発表標題 クプサビニ語 (南ナイル、ウガンダ) のダイクシスの表現：ビデオ実験データの分析
3. 学会等名 Prosody and Grammar Festa 2 (対照言語学プロジェクト合同発表会) 国立国語研究所 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Bellingham, Erika, Stephanie Evers, Kazuhiro Kawachi, Alice Mitchell, and Juergen Bohnemeyer
2. 発表標題 An experimental approach to the semantic typology of causative constructions
3. 学会等名 Association for Linguistic Typology 12th Biennial Conference (ALT 12), Australian National University, Canberra, Australia (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kawachi, Kazuhiro
2. 発表標題 Deictic directional suffix complex used for motion, associated motion, and aspect in Kupsapiny
3. 学会等名 Association for Linguistic Typology 12th Biennial Conference (ALT 12), Australian National University, Canberra, Australia (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 河内一博
2. 発表標題 分裂構文と疑似分裂構文の区別と使用における前提：シダーマ語の事例からの考察
3. 学会等名 日本語学会第155回大会 立命館大学衣笠キャンパス
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 河内一博
2. 発表標題 英語とシダーマ語の分裂構文と疑似分裂構文
3. 学会等名 東京アフリカ言語学研究会 東京外国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kawachi, Kazuhiro, Erika Bellingham, and Juergen Bohnemeyer
2. 発表標題 Different types of causality and clause linkage in English, Japanese, Sidaama, and Yucatec Maya
3. 学会等名 日本認知言語学会第18回大会 大阪大学豊中キャンパス(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kawachi, Kazuhiro, and Erika Bellingham
2. 発表標題 Japanese juncture-nexus types used for different causality types: an experimental study
3. 学会等名 14th Biannual International Conference on Role and Reference Grammar 東京大学駒場キャンパス(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Bellingham, Erika, Sang-Hee Park, Juergen Bohnemeyer, Anastasia Stepanova, and Kazuhiro Kawachi
2. 発表標題 Causality in discourse: crosslinguistic patterns
3. 学会等名 15th International Pragmatics Conference, Belfast Waterfront Center, Belfast, Northern Ireland(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 河内一博
2. 発表標題 シダーマ語の「言う」/「する」を使った表現の慣用化: 脱イディオフォン化と語形成
3. 学会等名 日本言語学会第154回大会 首都大学東京
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 河内一博
2. 発表標題 シダーマ語のイディオフォン
3. 学会等名 東京アフリカ言語学研究会 東京外国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 河内一博
2. 発表標題 通言語的に稀なシダーマ語の原因・理由構文
3. 学会等名 日本アフリカ学会第54回学術大会 信州大学教育学部キャンパス
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 河内一博
2. 発表標題 主要部標示と従属部標示の従属構文
3. 学会等名 東京アフリカ言語学研究会 東京外国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 河内一博
2. 発表標題 私の研究の紹介
3. 学会等名 NPO法人「地球ことば村 世界言語博物館」 ワークショップ「少数話者（危機）言語・研究未開発言語研究の推進に向けて」（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kawachi, Kazuhiro
2. 発表標題 Do speakers select constructions depending on the naturalness of described complex motion events?
3. 学会等名 13th International Cognitive Linguistics Conference (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Kawachi, Kazuhiro, Yuko Abe, Osamu Hieda, Kyoko Koga, Junko Komori, Nobuko Yoneda, and Hiroshi Yoshino
2. 発表標題 How African languages fit in Talmy's typology of event integration.
3. 学会等名 13th International Cognitive Linguistics Conference (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Kawachi, Kazuhiro
2. 発表標題 Event integration patterns in African languages: an Overview.
3. 学会等名 8th World Congress of African Linguistics (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Kawachi, Kazuhiro
2. 発表標題 Event integration patterns in Kupsapiny.
3. 学会等名 8th World Congress of African Linguistics (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Kawachi, Kazuhiro
2. 発表標題 Information structure in Sidaama.
3. 学会等名 African linguistics research colloquium.
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 河内一博、阿部優子、古閑恭子、小森淳子、稗田乃、吉野宏志、米田信子、若狭基道
2. 発表標題 イベント統合のプロジェクトの成果と今後の展望
3. 学会等名 Aflang研究会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 河内一博
2. 発表標題 クブサビニ語のイベント統合に関する問題点
3. 学会等名 Aflang研究会
4. 発表年 2015年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 Matsumoto, Yo, and Kazuhiro Kawachi (eds.)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Amsterdam: John Benjamins.	5. 総ページ数 317
3. 書名 Broader Perspectives on Motion Event Descriptions. (Human Cognitive Processing 69)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----